



もくじ

こいびと——表紙の生産者をご紹介
 安佐北区白木町
福田 卓己さん 2

特集
 「JAの自己改革に関する
 組合員調査」の
 集計結果のご報告 4

●JA広島市通信 6
 ●変わるんJA [第29回] 9

あなたの暮らしに支店だより
 古江支店 10

教えて! 営農さん
 農作物を台風から
 守るために 11

はじめての家庭菜園
 コウサイタイ 11

JAヘルシークリニック
 目の健康
 ～ドライアイ対策～ 12

松田麗子の台所からこんにちは
 キクラゲの佃煮 12

●わが家のスター 13
 ●おしゃべり広場 13

●クロスワードパズル 14
 ●JA広島市 情報BOX 15

●ひろしまる倶楽部 & こいぶみ
 農家今昔物語 16

本誌タイトル「こいぶみ」とは、JA広島市の気持ちをまっすぐに、組合員をはじめ多くの人に届けるため、広報誌を手紙に見立てたところから命名いたしました。「こいぶみ」の「こい」には、人や地域を愛する「恋」のほか、多くの人に呼んでもらえる「来い」、情報が「濃い」など、さまざまな意味を込め表現しています。



50年後の
 未来を思いながら、
 畑を耕している。



主力はコマツナとホウレンソウ。冬場はシュンギクやミズナも生産している。



暑い時期は、軸の太いしっかりとしたコマツナを出荷している。



師匠である中川農園の中川さん(右)。一緒にRCCテレビ「つなぐ大地の絆—Baton—」に出演した。



「白木町は農業のやりやすい土地。地元の方にも大切にしてもらっています」と福田さん。

こいびと——表紙の生産者をご紹介
福田 卓己さん (52歳)
 安佐北区白木町

太田川の支流、三篠川の周囲にのどかな田園風景が広がる安佐北区白木町。福田さんは、この地で葉物野菜をつくり続けて16年。農業に真面目から向き合ってきた歩みや農業への思い、今後の展望について伺った。

若手農家の代表として
 組織をけん引

この夏まで2年間、若手農業従事者の組織である「JA YOUTH 広島市」の委員長を務めた福田さん。JAと手を取り合って農業振興を進めたいと考えたことが、委員長職を引き受けた理由だった。

「広島市の農業を盛り上げるためには、JAの力が絶対に必要です。特に、若い世代に、そのことに気付いてほしいと考え、勉強会の開催や他団体との交流、生産者同士の情報共有など積極的に活動してきました」。これからも、JAは若手農家に寄り添う存在であってほしいと強く願っている。

中川農園で
 農業の基礎を築く

会社員だった福田さんが自分で何かをつくりたいという思いから農業を志し、白木町の中川農園を訪ねたのは35歳の時。そこで出会ったのが、今でも師と仰ぐ中川和義さんだ。「中川さんがいなければ今の自分はありません。一生の生業と決めた農業。その基礎を築いていただいた方です。師匠であると同時に、父親のような存在ですね」中川農園では農業の厳しさも楽しさも知ることができた。

「目の前に広がる農園の農地は、自分だけのものだとは思っていません」と思いを語る。視線の先には、50年後の未来にこの地を耕している人がいる。だからこそ、今、この場所を守らなければならない責任がある。農業のど真ん中を進みながら、次の世代を育て、中川さんから受けた恩をつないでいくことが、白木町の、そして広島市の農業振興につながると、福田さんは考えている。

ぶれずに進む
 農業のど真ん中

「就農時の不安は全くありませんでした」と語る福田さん。農業を

就農後は、13棟のハウスで、コマツナ、ホウレンソウ、シュンギクなど葉物野菜を中心に生産してきた。夏場は、早朝5時半から収穫を始め、お昼過ぎまでには箱詰め・調製作業を終えるようにしている。「土づくりには気を配っています。畜産農家からの牛糞や剪定くずを使ったバーク堆肥を混ぜてしっかりと有機物を入れながら、牡蠣殻によりカルシウムも与えるようにしています」

My History

マイ・ヒストリー

2004年 「ひろしま活力農業経営者育成事業」に参加
 2006年 白木町に福田農園を開園

My Hobby

マイ・ホビー

少し前まではドラムを叩いていましたが、今は農業一本です。

